



少年野球から野菜づくりへ

エース交易
監査役 原澤 藤夫



私は、以前、調布市に住んでいたころ、少年野球クラブのコーチ、監督、代表を約30年間やった。この少年野球で今でも一番印象に残っているのが、子供達の「目」の輝きである。子供達の「目」は、純粋で一点の曇りもなく、大人達の話や真剣に聞いている。

そのため、話をする側としても、いい加減な話をする事はできず、必ず事前に自分自身で話す内容について勉強したものである。

その後、約10年前に稲城市に引っ越してからは、野球に代わって、家から車で10分位のところに50坪位の農地を借りて、休日利用の

師曰く

ユニテックス
業務部長 小島 博



私が学生時代特にお世話になり、20年前に仲人までお願いした恩師は現在92歳、剣道8段範士で姿勢・鋭い眼光は当時と全く変わらず、今も師範として学生に剣道の指導をする一方で自らも稽古に出向き、心身の鍛錬に励んでおられる。「超スーパー高齢者」である。

そんな師に学生時代は礼儀礼節の重要性について口喧しく指導を受けた。人間の相互尊重の証として常に礼儀を重んずること。血気盛んな学生に対して、道を歩くときはすれ違うすべての人に対して挨拶をする気持ちで歩け、と。

禁煙

協栄物産
福岡支店長 金森 寛



2006年11月11日午後11時に、ある飲み屋において禁煙することになってしまった。(動機は今思うと不純なことの約束事ではあったのではと……)

喫煙歴36年、一大決心といふことでもなかったが、自分の今までの生きてきた人生の中でタバコと酒だけは絶対に死ぬまでやめられないと思っていたし、自分自身そんなに意志の強い性格とは思っていなかった。で、それは大変な約束をしてしまったということ、今でも後悔している今日この頃である。

現在世界中で、電車、飛行機、公共の場所等々、禁

鑑橋随想

(順不同)

「ブログ型」

明治物産
営業企画室室長 坂本 繁



今年の新社員タイプが「ブログ型」と命名されたように最近、ブログという言葉が定着してきた。日本では2002年ごろから広まってきたようで、私も個人で加入しているプロバイダーのブログが03年12月から開始されたのを機に、当業界でもブログを利用した情報発信が増えるだろうと思いついて開設しました。

個人的な興味を持っていて、これをテーマに、気楽な気持ちで毎日書くという目標でいきましたが、テーマがあるときはスラスラと書けるのですが、何も浮かばない時は1週間、10日と書けない日が続きました。

娘の結婚が話題になる歳

ローズ・コモディティ
顧客管理部部長 小野 幸一



最後の学生生活を終えてから32年になるうとしてい

この業界に入り、九州から北海道まで転勤で動き、また、学生の頃はワンゲルで石垣島から知床半島まで、あちこち動いた人生だった。

その間、ご無沙汰している友人に街でひょっこり会ったりもした。

毎年楽しみにしている年賀状、ここ2、3年「娘が嫁ぎました」「孫が出来ました」との一筆が添えられた年賀状が目につくようになった。

そんなおり、仕事で富山に行く機会があり、学生の

宙船

三貴商事
企画本部副部長 石崎 尚彦



1年に1曲位の割合で、聴いた途端に好きになる歌があります。若い頃はもつと頻度が高かったのですが、最近は感性がなくなってきたというのでしょうか。

去年は「青春アミーゴ」でした。今年はTOKIOの「宙船」です。

もちろんジャニーズフリークではありませんし、実際にヒットしたのは昨年です。

大晦日の夜、K-1でボビー・オロゴンがチェ・ホンマンにKO負けした直後、NHKの紅白歌合戦をたまに見て、私の心にズシンと響きました。(この時点で

見 拜
誤り馬券

隠れた競馬通

元東穀取専務理事 森川 直司

その結果は「処分者が出るからご内聞に願いたい。誤り馬券を持ってきてくれれば100円で引き取ります」と中央競馬会は平身低頭だったという。

本紙では早速、森川さんを直撃した。森川さんは借金庫の奥深くしまつてある馬券(写真)を見せてくれた。それは昭和29年5月31日(第3レース)で5頭立ての3レースで5頭立ての3レースは5頭立てで3レースはあり得ない

「私は戦後、競馬が再開された当時の競馬ファンですが、休日にはよく馬場に通いました。当時は6枠制の連単で、その日、第4レースの3レースを発売する穴場で3枚買ったのですが、後でよく見たらすでに終了していた第3レースの3レースだったのです。その第3レースは5頭立てで3レースはあり得ない」

森川さんは1枚を山根東穀常務理事(元農林省畜産局長)、もう1枚を山口哲士全協連専務理事に贈呈したという。前出の某高官とは山根さんのことであつた。競馬会では誤り馬券を売ったので「ご内聞に」となった次第。

本紙では裏付けを求めて新橋の中央競馬会広報センターで当日の記録を調べた。確かに第3レースはサラ系4歳馬障害(害)競走で、5頭立てだった。

本紙では、この時、はしたなくも、第5日目といえ、土曜日ではないかと、と勘繰った。当時は土曜日でも立会が行われていたから、森川さんはサボって馬場に「ご内聞に」と、ドンデン返しになるところ。が、当日は堂々たる日曜日で、「晴馬場長」と記録にあり、すまじきは下司の勘繰り、と自戒した次第。

初任給が1万円に満たない時代、森川さんはなかなかの勝負師である。昭和41年5月29日、ダービーの当日、東北地方を友人と旅行中の森川さんは福島競馬場であり金はたいてダービーに賭け、28万円の大当たり、日程を延ばして土湯温泉で豪遊したという。



奇怪な外れ馬券

マーケット・メーカー勉強会を東工取に申し入れ

先物協会は1月17日の制度政策委員会、東京工業品取引所に対してマーケット・メーカー制度に係る勉強の機会を設けてもらうよう申し入れすることを決めた。

金のミニ取引など新規市場商品の取引に際し、上場時のご祝儀商いに終わらせないように同制度導入の是非を検討するとともに、マーケット・メーカー参加を希望する商品取引員の考えや条件を十分にヒヤリングしてもらうのが狙い。

事務局だより

大学で商品先物を取引している黒崎誠氏(当先物協会広報委員会委員)は、若い人は先物取引に対する抵抗感がなく、話をすると興味津々で聞き入る。早い段階から先物取引に関する正しい知識を啓蒙普及させていくことが大切であると言っています。

また、業界関係者が主催するトレダーズスクールでは大学生が受講し始めたとのニュースも流れています。

柔軟な「ラバール」を持つ人たちの間に商品先物取引のファンは増えていくよう啓蒙活動も必要と考える次第です。